

アジア水環境パートナーシップ（WEPA）事業について

（社）海外環境協力センター Kazuaki Mori
企画部長 森 一 晃

1. はじめに

アジア水環境パートナーシップ（WEPA）は、2003年3月に京都で開催された、第三回世界水フォーラムで日本国環境省により提案された環境データベース構築事業です。

参加国は、日本の他カンボジア、中国、インドネシア、韓国、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、タイの10か国です。OECCは、本年度より、本事業のうち、水環境保全技術データベース作成に協力しています。以下に、本事業を取り巻く国際的な背景や事業内容につき、紹介します。

2. 背景

水に係る国際的な課題については、「国連水と衛生に関する10か年計画」（1980年～1990年）などの取り組みが行われてきました。1990年代に入り、グローバルな課題として、水問題を捉えようとの試みが、1992年のUNCED（いわゆる地球環境サミット）にむけ開始されました。UNCEDでは、水問題の抱える課題の広がりや深刻さにつき、一定の理解を得ることが出来ました。しかし、水問題の課題の広がりや多岐に渡る関係者間の調整の困難さから、気候変動問題や生物多様性問題が、国際間協力の枠組みを作ることに成功したのに比較すれば、大きな成果を得るまでには、至りませんでした。その後、このグローバルな課題として、水問題を捉えようとする試みは、UNCEDのフォローアップを目的として、国連決議に基づき設立されたCSD（国連持続可能な開発のための委員会）の場に引き継がれ、国連ミレニアムサミットなどを通じ、今世紀の国際社会が取り組むべき重要課題の一つであるとの認識が、広まってきています。

3. 第三回世界水フォーラムとアジア水環境パートナーシップ（WEPA）について

また、水問題の抱える多くの課題に対して、既存の組織のみでは、効果的な対応が、困難との認識から、WWC（World Water Council）やWSSCC（Water Supply and Sanitation Collaborative Council）のような新たな横断的な組織が設立されました。

この中で、WWCは、水から得られるさまざまな恩恵を、コストを伴うサービスとして、認識し、管理していくことを重視した活動などを行っています。

アジア水環境パートナーシップ（WEPA）は、このWWCが主催する第三回世界水フォーラムで日本国環境省が提案したイニシアティブで、水環境問題のガバナ

スと能力向上のための情報プラットフォームを構築するとともに、各関係者とのパートナーシップのもとに地域の持続的な発展を促進することを目的としています。

4. 第1回国際ワークショップの開催と水環境保全技術データベースの内容

アジア水環境パートナーシップ（WEPA）第1回国際ワークショップが、本年1月24日から25日に、東京で開催されました。この国際ワークショップには、WEPAのパートナー国8か国の政府代表者、日本国の水環境専門家を含む33人が参加しました。

水環境保全技術データベースについては、以下のような確認がなされました。

(1) 水環境保全技術データベースの目的

水環境保全技術データベースは、パートナー国の政策担当者（技術系）や事業の実施者などが、水処理技術・システムの計画や導入を図る際に、クリーナープロダクションのようなソフトテクノロジーを含む適切な技術の選択・適用や、持続性に配慮した建設・運用が可能なるよう、重要な事項について着眼し、かつ認識を深めることに資することを目的としています。

この重要な事項としては、アジアモンスーン地域の特徴に配慮した、地域的な実情への適合性、コストリカバリーを含む運用管理、処理性能、周辺住民の理解と協力、資金計画を含む中長期的な視点などが考えられます。

(2) 水環境保全技術データベースの特徴

水環境保全技術データベースの整備にあたっては、十分な運転稼働の実績があり、かつ、地域風土に適した持続可能な運用に配慮している事例を掲載することに留意します。

また、アジアモンスーン地域の特徴に配慮した適正技術の適用を促進する必要性と有用性について、パートナー国間で協働して検討活動を行い、その成果をWEPA独自の情報として提供してまいります。

そして、パートナー各国の水環境保全技術データベース担当者が参加する第一回技術ワーキングを2005年6月目途に開催し、水環境保全技術データベースの構築のために必要な、より具体的な事項について、検討、調整を図ることとしております。